

農業は「記録」が品質を高める 地元発アプリで「JGAP」認証を取得



▲下條莊市氏。トラクターなど大型機器を所有していることから、近隣農家から個別の農作業依頼を受けることも多いという。

▶広がる田んぼの風景。「稲とお話ができてこそ、良い米が作れる」

米 どころ新潟の新発田市で代々農業を営むそうえん農場の下條莊市氏。2012年に出荷したお米は100%一等米だった。

「しっかりと土を作り、毎日様子を見ながら水や肥料を調整、気を配る。かつこい言葉でいうと、稲とお話するのが米作り。うちのお米はおいしいよ」と自信をのぞかせる。

増え続ける農地 土地ごとの管理に難点

早くからネット通販にも取り組み、各地にファンがいる。後継者のいない近隣農家の農地を引き継いでいるうちに作付け面積は東京ドーム約3個分に当たる17ヘクタールになった。

2012年4月には、食の安全や環境保全に取り組み農場に与えられる認証「JGAP」(ジェイ

ギャップ)を取得。そうえん農場から出荷される農作物は、どんな場所でもどのように栽培されたかを確認することができる。

年々広がる圃場(田んぼや畑など農地のこと)は、市内に点在している。にもかかわらずJGAPの基準を満たす圃場別の農作業管理を実現できた背景には、県内企業が開発した農業生産管理ツール「アグリノート」の存在があった。

「アグリノート」は県内のITベンダー・ウォーターセルが開発したクラウド型サービスだ。実は下條氏の意見が企画のベースになって生まれた。

「田んぼの場所ごとに農作業を記録できるソフトがあると使いやすい」との発言を受け、県内の支援機関である財団法人にいがた産業創造機構の担当者が実現できるITベンダーを探し商用化

をバックアップしたのである。

航空写真から圃場を指定 アグリノートの新発想

これまでも農作業を記録するシステムはあったが、「土地ごとの作業管理」が課題だった。

「たいいていのシステムでは圃場がID番号化されますが、ID番号と実際の場所との照合が面倒で、結局使わなくなるのです。そこで場所を直接指定できると使いやすいと希望を出したのです」と下條氏は打ち明ける。

「アグリノート」では、航空写真上から圃場を選び簡単な操作で作業内容を記録できるので、こうした煩わしさがなくなる。さらに、利用者の意見を聞きながら改良を行い、シンプルでわかりやすい操作性を確保した。

「家でビールを飲みながらも記録できるものが良いと頼みましたが、その通りになった」と下條氏は笑顔で話す。

子息の下條聡郎氏はスマートフォンを所有しているので、一緒に作業しているときは、その場で入力。自身も画面が大きいタブレット

トを使用する予定だという。下條氏は「アグリノートを使っただけこそ、JGAPが取れました。数百万円かけてシステムを入れた方もあるそうですが、アグリノートは月当たり3400円程度。とても良い仕組みだと思います」と評価する。

生育状況を踏まえて 素早い軌道修正にも効果

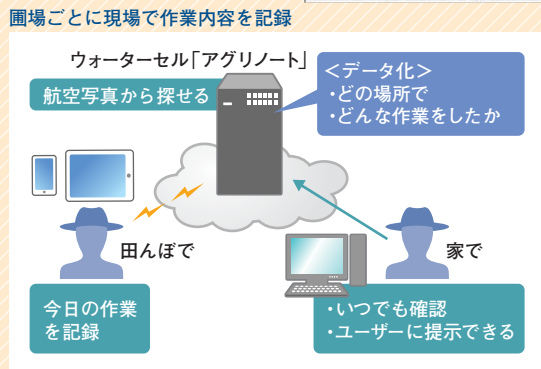
稲作は1年サイクルだから、記録が生きてくるのは1年後以降と想定されるが、使い始めてまもなく効果が出たという。

「稲を見て、生育が悪いと感じたら作戦を立て直します。その際、いままでは勘に頼ってしまいましたが、この圃場でどんな作業をしてきたかの記録があれば原因もわかりやすい。現場ですぐデータも見られますし便利です」

安心・安全な農作物づくり、そして高品質の追求に、モバイルが役立つ。



▶アグリノートの画面。航空写真から記録したい田んぼの場所をクリックし、作業内容を入力できる。利用者の意見を聞き、シンプルでわかりやすい画面に改良してきた。



▶そうえん農場のホームページ。ネット通販には2002年から取り組んでいる



会社概要

そうえん農場

新潟県新発田市横岡
事業内容：農業米、イチゴ、枝豆。餅の製造販売。
田畑面積約17ヘクタール

URL : <http://www.shimojo.tv/>

活用データ

▶端末

スマートフォン、タブレット

▶目的

農作業データの活用

▶何をするか

圃場でのデータ入力、圃場別の作業履歴確認

▶使う人

農作業従事者